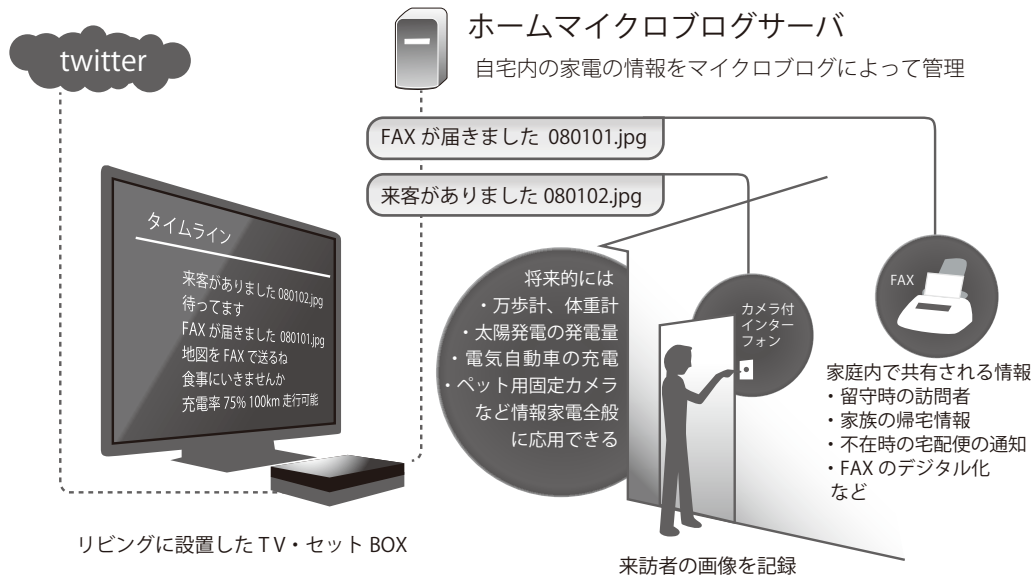


図 1. 家庭内での情報家電のメッセージング



テレビ画面で家電からの情報を表示。携帯電話にも対応し宅外から家族の帰宅などを確認することができる。将来的には電気自動車の充電や太陽光発電の管理などにも応用できる技術として開発を行う。

図 2. 医療、介護などでの情報の共有化

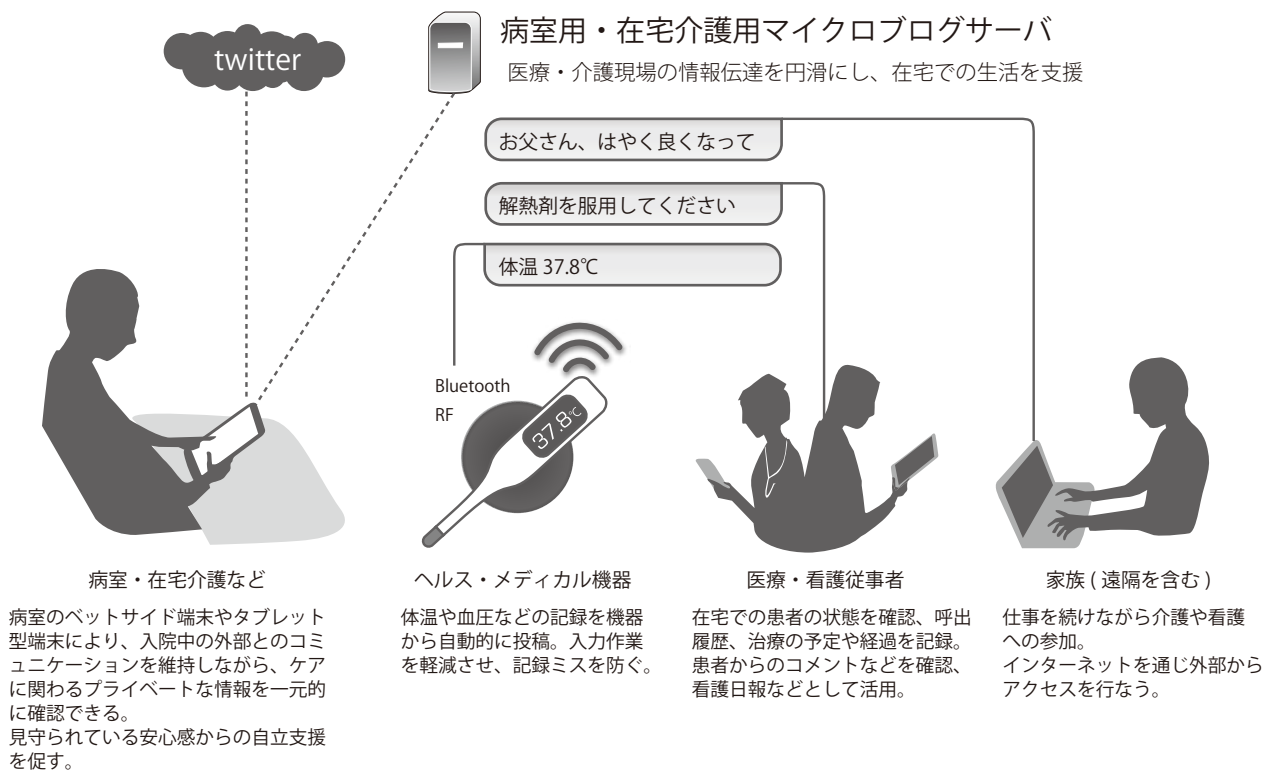


図 3. 災害時などにおける細分化された地域毎の情報提供



用語

【SCOPE】

国際競争力の強化、国民の安心・安全の確保、地域の活性化などに貢献して豊かなユビキタスネット社会を築くための研究開発を支援する総務省の競争的資金制度です。本年度の採択課題については下記ホームページをご参照ください。  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/scope/subject/s\\_h22.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/scope/subject/s_h22.html)

【twitter】

2006年に米国企業が開発。利用者はコンピュータや携帯電話から140文字以内の文章を投稿し他の利用者共有するグローバルなマイクロブログサービス。国内でも利用者が伸びており、1000万以上人以上が利用。最近では行政や地域・企業などの利用も増加している。  
<http://twitter.com>

【マイクロブログ】

ミニブログとも呼ばれる。短いテキストを投稿共有するため、更新が容易。そのためリアルタイムなコミュニケーションが行われることが多い。twitterが有名であるが、企業内での情報共有を目的としたイントラネットでの企業内限定のマイクロブログなども存在する。

【twitter クライアントアプリ】

twitterは他のwebサービスと同様にInternet ExplorerやFireFoxなどのブラウザから利用することができるが、この他にtwitter専用のソフトウェアを携帯電話やパソコンなどの端末にインストールして利用することもできる。このように端末にインストールして使用する専用ソフトウェアをクライアントソフトと言い、ブラウザよりも柔軟に機能提供ができる。代表的なクライアントにtweetDeckやHootSuite、Twitbirdなどがある。

【LNS】

Life(Local) Networking Serviceの略。SNS(Social Networking Service)に対し、生活(Life)や地域(local)に特化した小規模マイクロブログなどのネットワークングサービスに対する我々の造語。人と人とのつながりだけでなく、無線技術(ICカードなどに使われる非接触通信技術、近距離で使われるBluetooth技術、無線LAN技術など)やセンサーによって情報家電などの生活に関わるモノからの情報にも対応する。

【SNS】

Social Networking Serviceの略。人と人をつながりやコミュニケーションを支援するインターネットサービス。twitterもSNSのサービスの一つ。他にFacebook、mixiなどが有名。2003年より世界中で様々なサービスが運営され、ニールセン・カンパニーの調査によると2009年12月にはアメリカで142.1百万人、日本では46.6百万人が利用している。ユーザは自分のプロフィールや日記を公開することで、友人や知人とインターネット上で互いの状況を確認し情報を交換することができる。